

第2章 スポーツ活動の現状と課題

第2次刈谷市スポーツマスタープランに基づき、スポーツ振興に必要な5つの条件整備として、(1)活動プログラムの充実、(2)クラブ・団体の育成、(3)施設の整備・充実・開放、(4)指導者・リーダーの育成、(5)情報の提供を基本施策として、さまざまな取り組みを行ってきました。

ここでは、「1 スポーツ活動の現状」「2 これまでの取り組みの評価」「3 スポーツ活動の推進に向けた課題」について、それぞれ5つの基本施策に沿った形で整理します。

1 スポーツ活動の現状

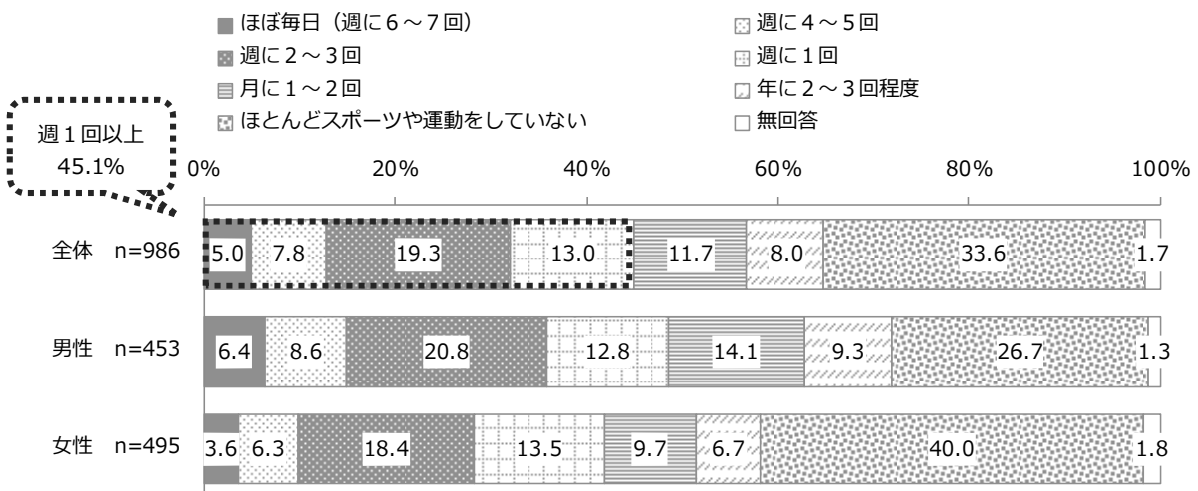
(1) 活動プログラムの充実

① 「するスポーツ」の状況

2017（平成29）年度に実施した「刈谷市スポーツに関するアンケート調査」では、週に1回以上、1回あたり30分程度以上のスポーツや運動をしている18歳以上の市民（調査区分として、18歳以上の市民を“一般”と表記しています。）の割合は、45.1%となっています。

ほとんどスポーツや運動をしていない人の割合は、全体では、33.6%で、性別では、男性より女性の方が多く、女性では40.0%に及んでいます。

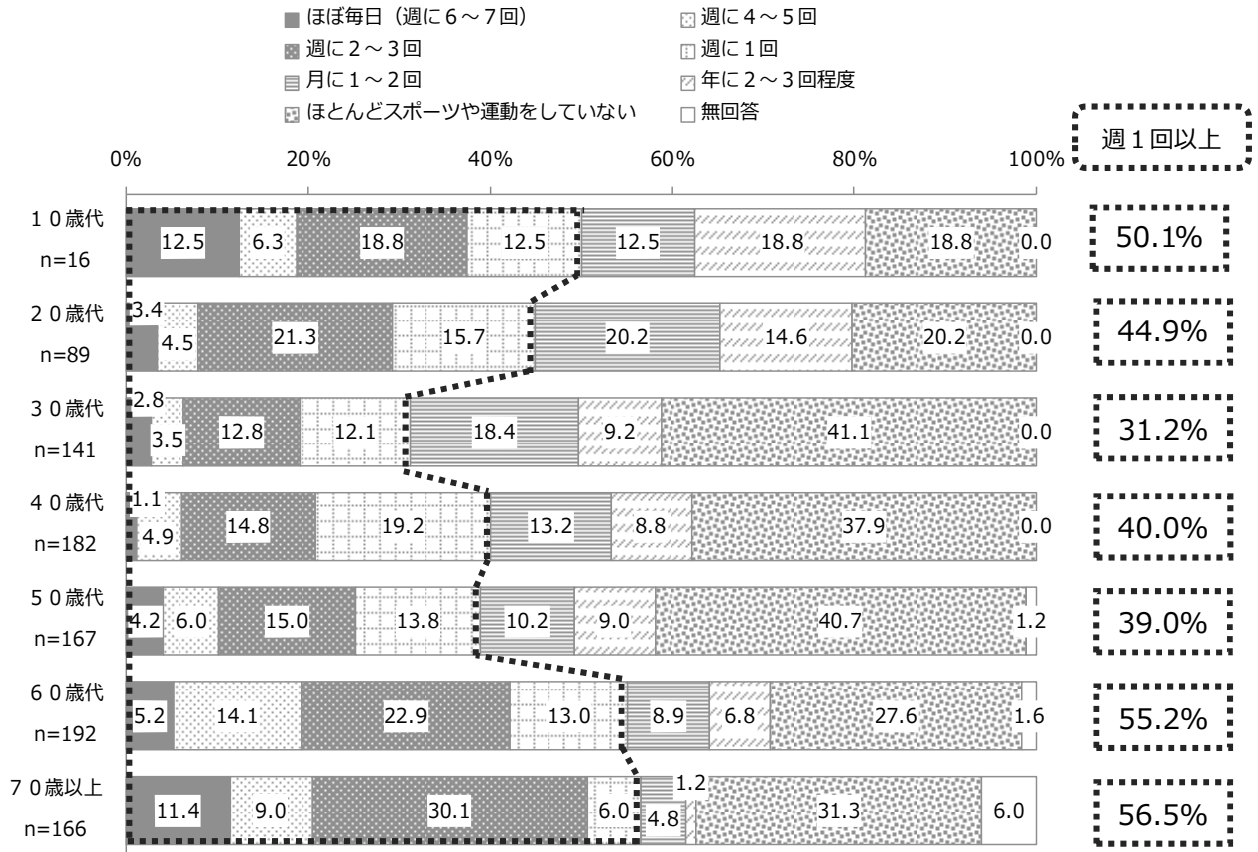
図表 1 スポーツや運動の実施頻度（一般）〈単数回答〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

週に1回以上スポーツや運動をしている人の割合を年代別で見ると、10歳代（18～19歳）と60歳代以上で50.0%以上となっている一方、主に働く世代の20歳代～50歳代ではすべてが45.0%を下回るなど、年代により差が見られます。

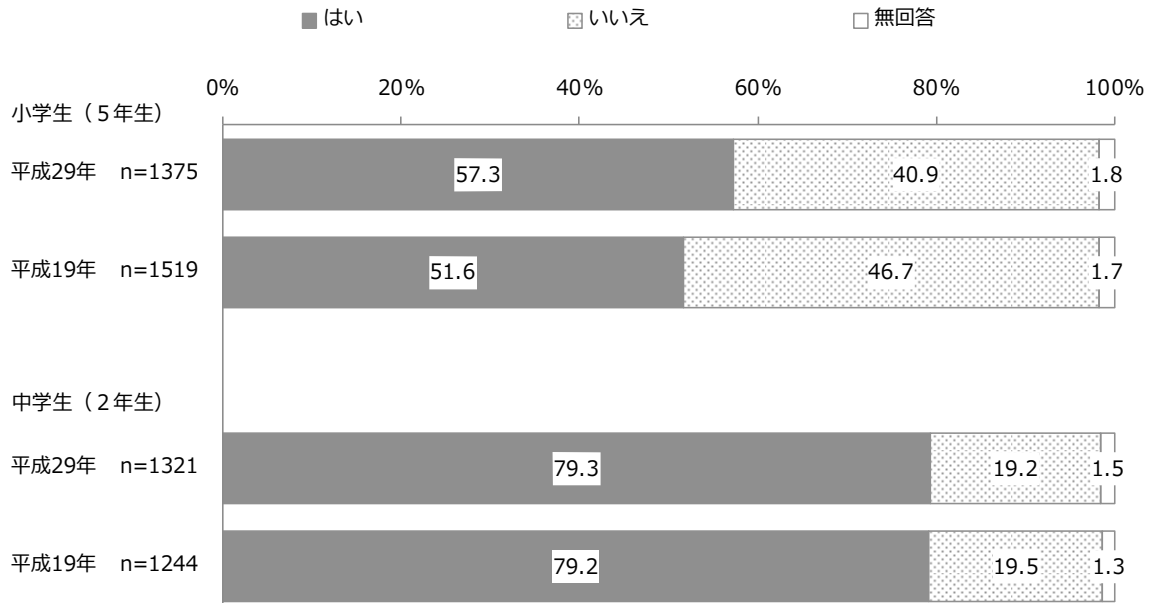
図表2 【年代別】スポーツや運動の実施頻度（一般）〈単数回答〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

小中学生のスポーツや運動の実施状況では、学校の部活動（運動部）へ加入している人の割合は、小学生が57.3%、中学生が79.3%で、10年前と比べ、小学生で5.7ポイント高くなっています。

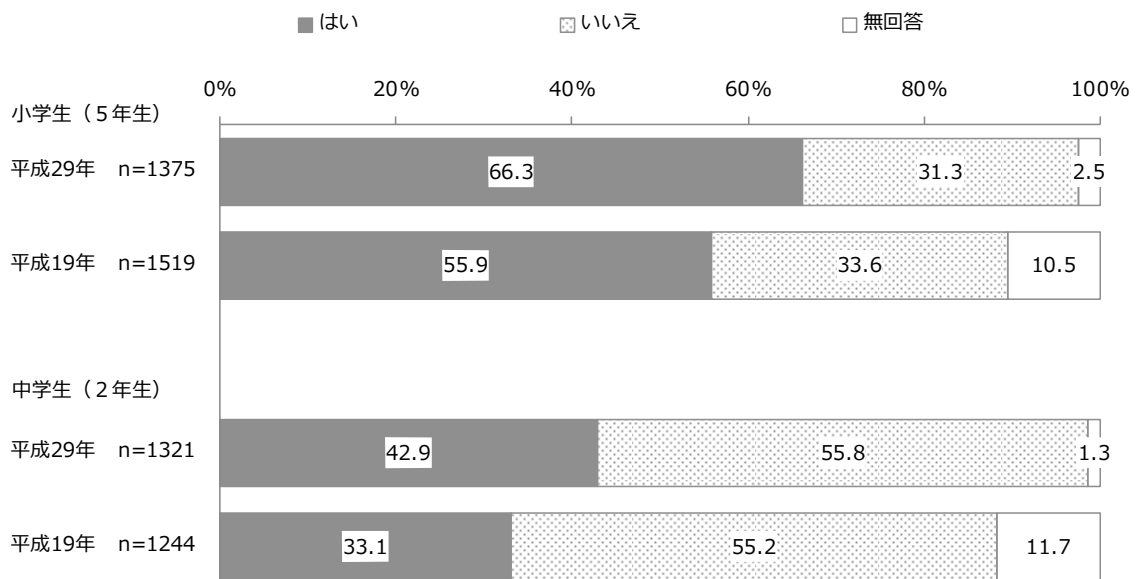
図表 3 学校での部活動（運動部）への加入状況（小中学生）〈単数回答〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」
平成19年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」

学校以外でスポーツや運動を実施している人の割合は、小学生が66.3%、中学生が42.9%で、10年前と比べ、小中学生ともに高くなっています。

図表 4 学校以外でのスポーツや運動の実施状況（小中学生）〈単数回答〉

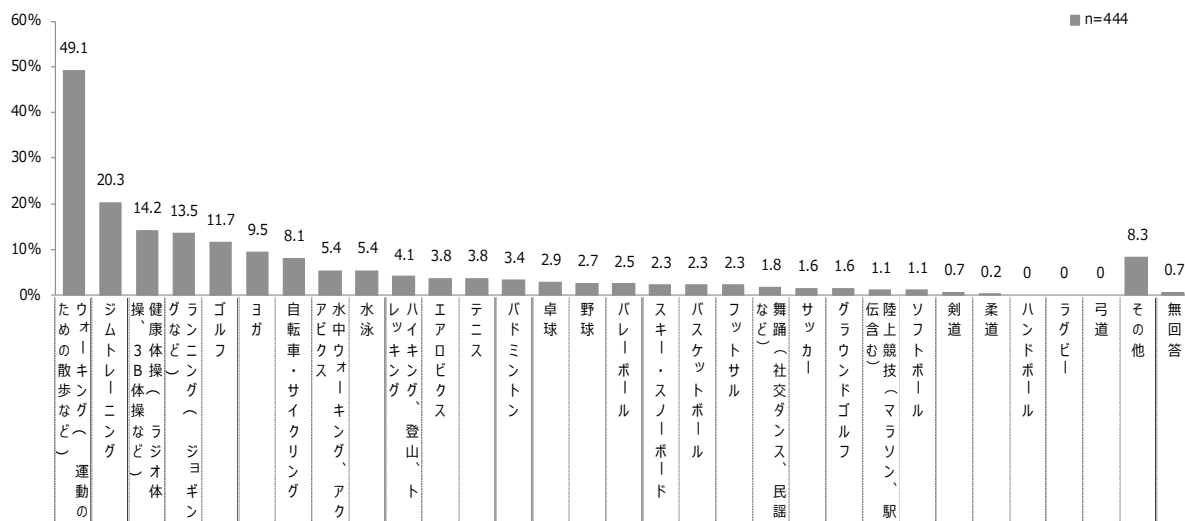


資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」
平成19年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」

18歳以上の市民（一般）が、実際に行っているスポーツや運動は、「ウォーキング（49.1%）」、「ジムトレーニング（20.3%）」、「健康体操（14.2%）」、「ランニング（13.5%）」、「ヨガ（9.5%）」、「自転車・サイクリング（8.1%）」など健康づくりを目的としたものの割合が高くなっています。

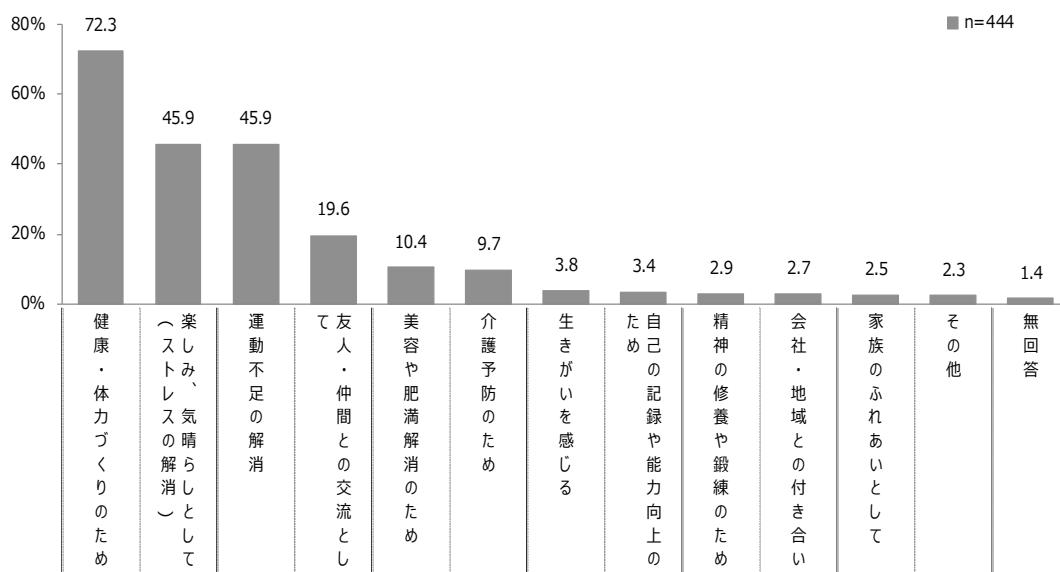
また、スポーツや運動をしている理由でも、「健康・体力づくりのため（72.3%）」が最も多くなっており、市民の健康に対する意識の高さがうかがえます。

図表 5 実際に行っているスポーツや運動（一般）〈複数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

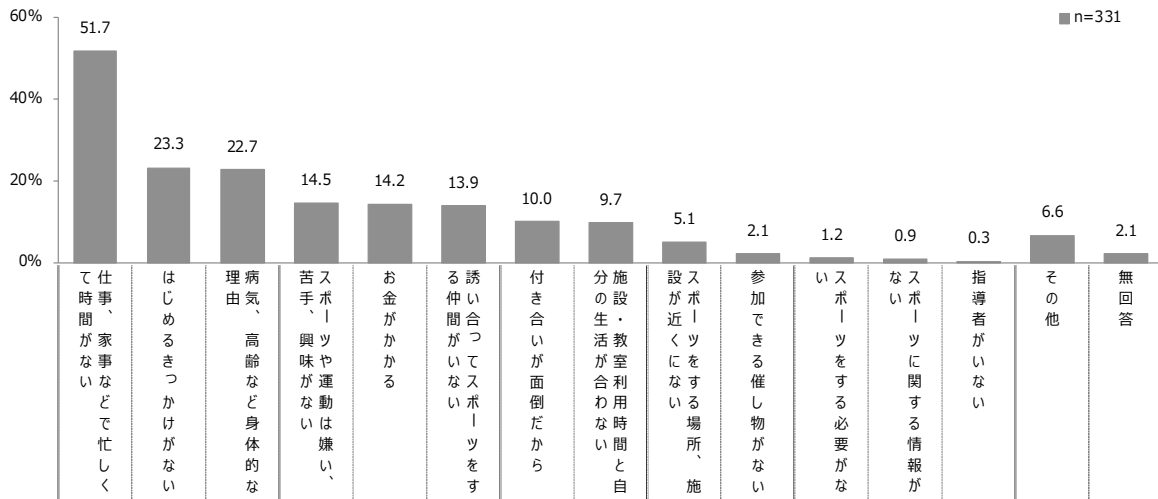
図表 6 スポーツや運動をしている理由（一般）〈3つまで〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

ほとんどスポーツや運動をしていない理由では、「仕事、家事などで忙しくて時間がない(51.7%)」が最も多く、次いで「はじめるきっかけがない(23.3%)」となっており、時間的な制約の解消やきっかけを提供することで、スポーツや運動をする人が増加する可能性もうかがえます。

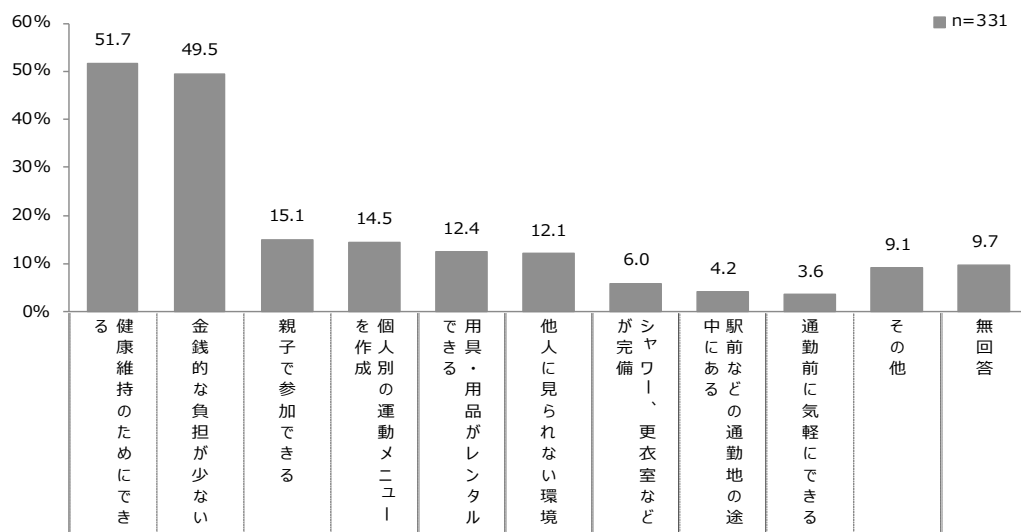
図表 7 スポーツや運動をしていない理由(一般)〈3つまで〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

ほとんどスポーツや運動をしていない人が、スポーツや運動をやってみたいと思う条件やメニューでは、「健康維持のためにできる(51.7%)」、「金銭的な負担が少ない(49.5%)」が多くなっています。

図表 8 スポーツや運動をやってみたいと思う条件やメニュー(一般)〈複数回答〉

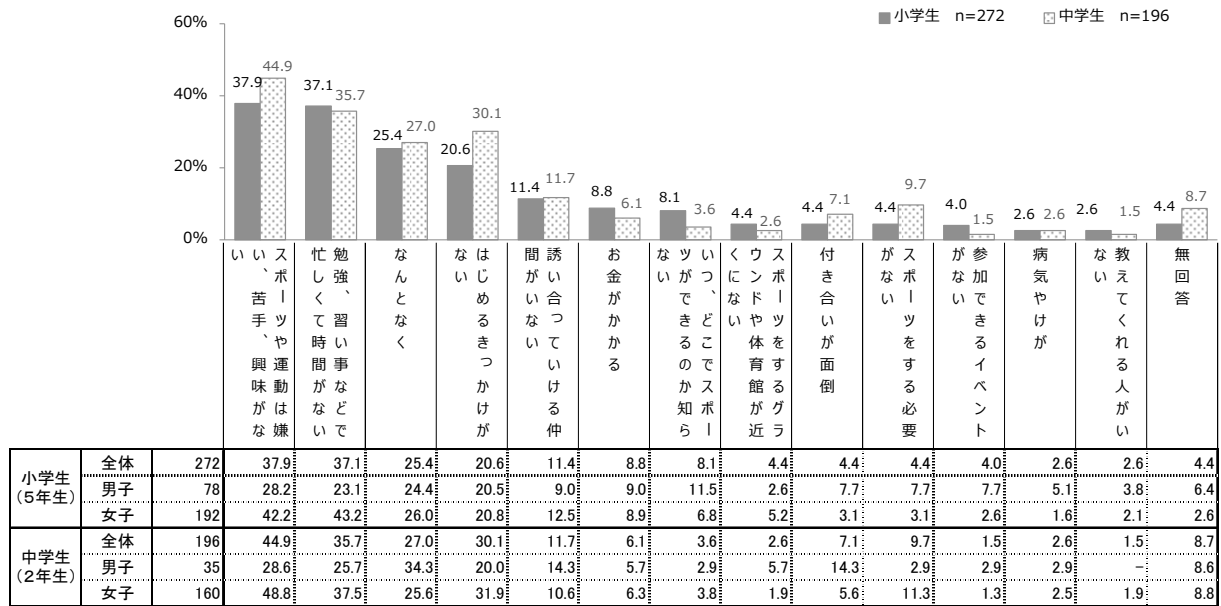


資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

小中学生がスポーツや運動をしていない理由では、小中学生ともに「スポーツや運動は嫌い、苦手、興味がない（小学生37.9%・中学生44.9%）」が最も多く、次いで「勉強、習い事などで忙しくて時間がない（小学生37.1%・中学生35.7%）」となっており、中学生では「はじめるきっかけがない（30.1%）」も多くなっています。

また、「スポーツや運動は嫌い、苦手、興味がない」では、小中学生ともに男子よりも女子の方が多くなっています。

図表 9 スポーツや運動をしていない理由（小中学生）〈3つまで〉



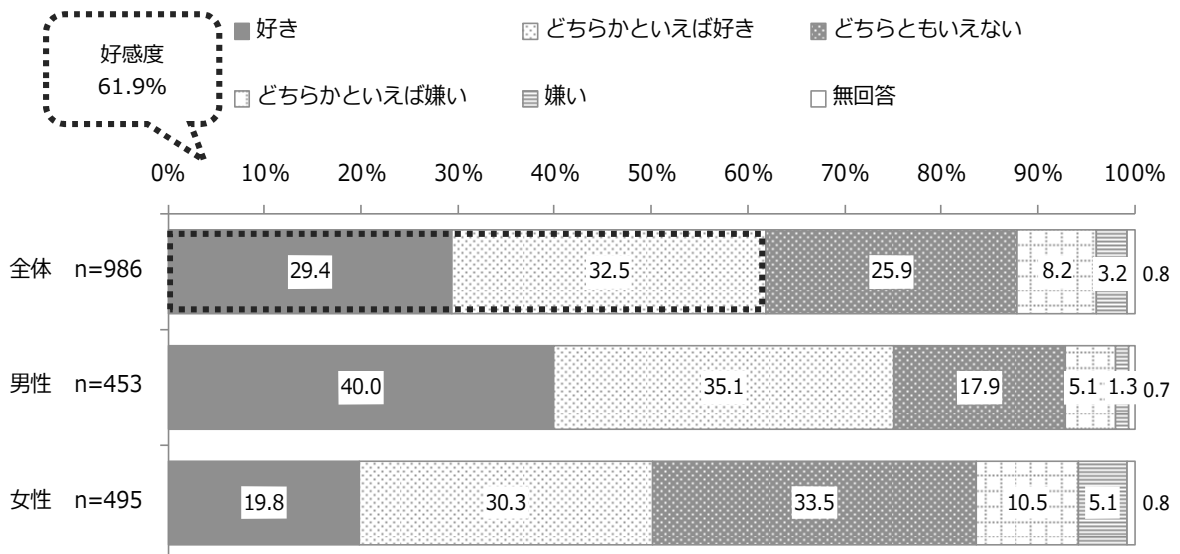
資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」

② 「みるスポーツ」の状況

スポーツを見たり聴いたり読んだりすることに対する好感度は、全体で61.9%となっています。

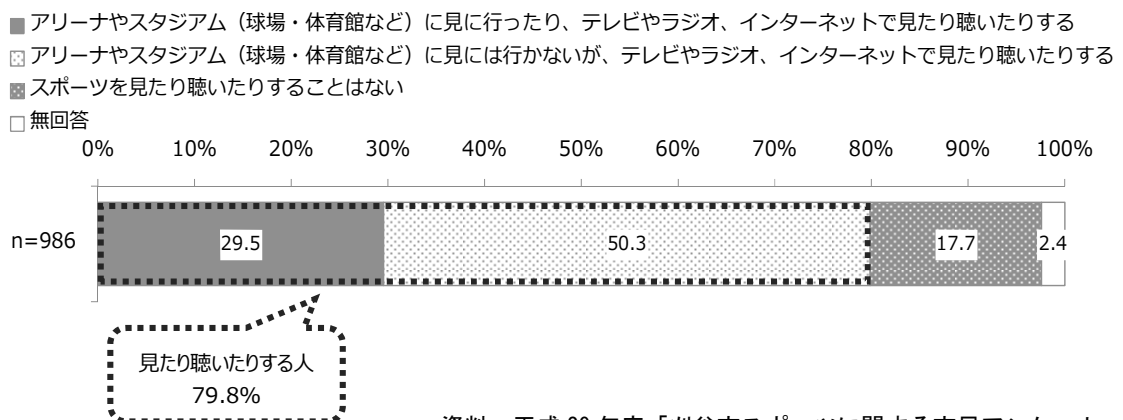
また、実際にアリーナやスタジアムまで見に行ったことがある人は29.5%、アリーナやスタジアムに見に行っていないが、テレビやラジオ、インターネットで見たり聴いたりする人は50.3%となっており、何らかの形でスポーツを見たり聴いたりする人の割合は79.8%に達しています。

図表 10 スポーツを見たり聴いたり読んだりすることへの好感度（一般）〈単数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 11 スポーツを見たり聴いたりすることの有無（一般）〈単数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

本市のスポーツ環境の特徴の一つとして、盛んな企業スポーツ、プロスポーツが挙げられます。それらのチーム・選手の多くがトップリーグなど国内最高峰の舞台で活躍し、市民に喜びや感動を与えています。

この恵まれたスポーツ環境を生かし、全国レベルのさまざまな競技の試合を誘致し、市民が高いレベルの試合を観戦できるよう「みるスポーツ」の推進に取り組んでいます。

図表 12 トップリーグ等の試合数 (回)

イベント名	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
日本女子ソフトボールリーグ1部	8	10	6	6	4
ジャパンラグビートップリーグ	1	—	—	1	1
V・プレミアリーグ男子	4	4	5	3	4
V・プレミアリーグ女子	4	4	4	4	7
日本ハンドボールリーグ男子	2	4	3	5	4
ナショナルバスケットボールリーグ (N B L)	12	12	20	3	
プロバスケットボールリーグ (B リーグ)				20	26
バスケットボール女子日本リーグ (W J B L)	18	13	10	8	6
東海社会人サッカーリーグ1部	7	7	7	7	7
計	56	54	55	57	59

資料：刈谷市スポーツ課調べ

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2026年の第20回アジア競技大会の愛知・名古屋大会など、今後、国内では多くの国際スポーツ大会の開催が予定されています。

これらの開催を絶好の契機と捉え、スポーツを通じて市民に夢や希望を与え、本市におけるスポーツ振興の更なる発展を図ることを目指し、国際スポーツ大会などの誘致に取り組んでおり、多くの観客がスポーツ観戦に訪れています。

<国内で開催される主な国際スポーツ大会>

開催年	大会
2019年	ラグビーワールドカップ (愛知県他)
2020年	東京オリンピック・パラリンピック競技大会
2021年	関西ワールドマスタースゲームズ
2022年	世界バドミントン選手権大会 (東京都)
	⋮
2026年	アジア競技大会 (愛知県)

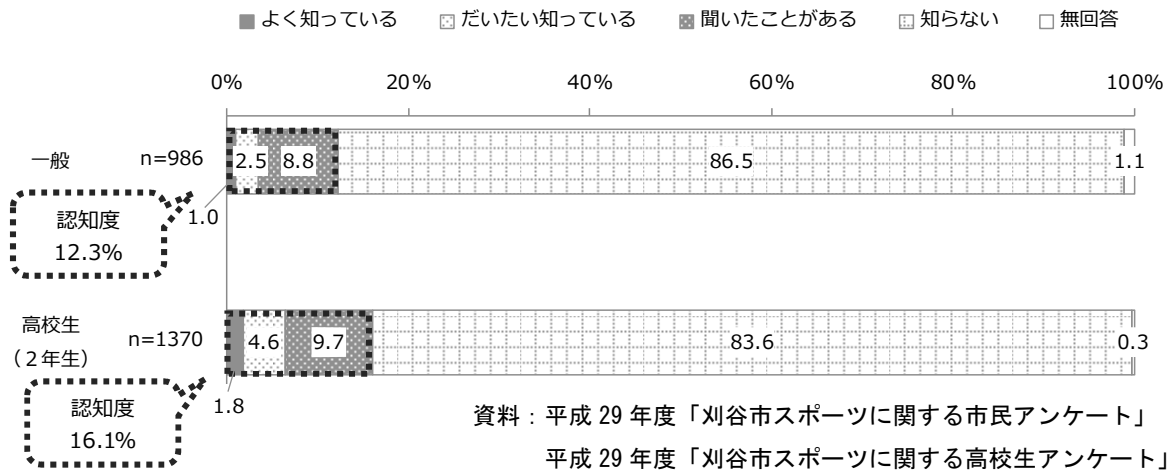
③ 「ささえるスポーツ」の状況

市民のスポーツ活動の推進には、指導者やリーダーだけでなく、子どものクラブ活動、大会や教室、イベントの運営などをささえる、スタッフやボランティアなどの存在が不可欠です。

「ささえるスポーツ」という言葉の認知度は、18歳以上の市民（一般）が12.3%、市内の高校に通う高校生が16.1%で、まだまだ知らない人が多い状況です。

スポーツを「ささえる」活動の参加経験がある人では、「子どものスポーツや運動の部活動、クラブ活動などの運営や支援（9.2%）」が最も多く、その一方で、参加経験のない人が80.2%となっています。

図表 13 「ささえるスポーツ」という言葉の認知度（一般・高校生）〈単数回答〉



ささえるスポーツって？

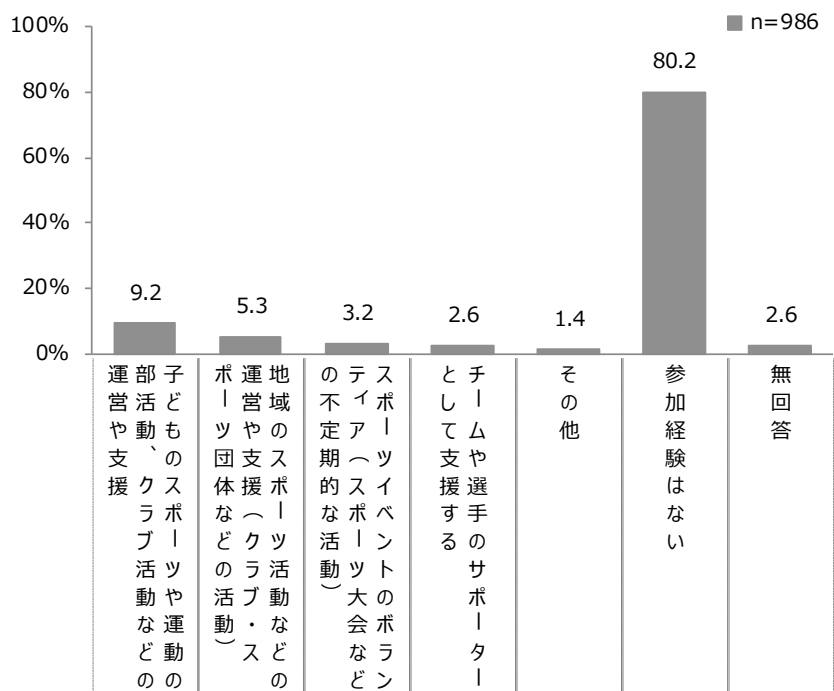
ささえるスポーツとは、ささえるという視点でスポーツの担い手としてイベントを成功へと導く立役者で、スポーツ経験がない人や専門的なルールを知らない人でも、年齢、性別、国籍を問わず、だれでも参加できるスポーツ活動の一つです。

長野冬季オリンピック（1988年）以降、「する」スポーツ、「みる」スポーツに加え、スポーツを「ささえる」活動が着目されるようになり、スポーツにおける「ボランティア」活動が新たにその意義・価値を認められるようになってきました。



刈谷 GOGO ウォーキング大会のチェックポイントで受付をする中学生ボランティアとスポーツ推進委員

図表 14 「ささえる」活動の参加経験（一般）〈複数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」



ホームタウンパートナーチームのホームゲームにおけるエスコートキッズ



ホームタウンパートナーチームのホームゲームにおけるコートボランティア

④ スポーツ教室や大会・イベント等の開催状況

現在、市内ではさまざまなスポーツ教室やスポーツ大会・イベントが開催されていますが、その中で市や各スポーツ連盟などが主催するスポーツ教室は28種類あり、毎回多くの市民が参加しています。

また、スポーツ大会・イベントは、市、体育協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会の各主催で開催されており、2017（平成29）年度は24の大会・イベントに、約14,000人が参加しています。

図表 15 スポーツ教室（平成29年度）

主催	教室名	募集人数 (人)	1年間の 開催回数 (回)	1回の日数 (日)
市	楽しくミニテニス	40	3	10
	子どもスポーツ	45	3	10
	子どもラグビー	40	3	10
	ミニテニス	50	3	10
	楽しくスポーツ	40	3	10
	子どもフットサル	40	3	10
	子どもバスケットボール	60	3	10
	大人フットサル	40	3	10
	ようじたいいく	40	3	10
各連盟等	楽しくエンジョイテニス	40	3	10
	リフレッシュテニス	40	3	10
	火曜バドミントン	50	3	10
	金曜バドミントン	50	3	10
	柔道	20	通年	
	月曜卓球	40	3	10
	火曜卓球	35	3	10
	金曜卓球	35	3	10
	楽しく卓球	40	3	10
	弓道（月・木曜）	10	1	12
	弓道（土曜）	30	2	12
	小学生バレーボール	50	通年	
	ソフトテニス	40	3	10
	小学生ハンドボール	30	通年	
	ビームライフル射撃	12	2	2
	市民レク・フォークダンス初心者講習会	90	1	1
	ペタンク初心者教室	15	1	8
	ミニテニス講習会	定員なし	1	1
	スポーツ吹矢体験会	10	1	5

資料：刈谷市スポーツ課調べ

図表 16 スポーツ大会・イベント参加者数

(人)

主催	イベント名	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
市	かきつばたマラソン	1,832	1,895	2,197	2,090	2,178
市	体力・運動能力調査	43		74	64	48
市	ソフトバレーボール大会	180	128	171		
市	ミニテニス交流大会	150	220	86	100	86
市	ユニホッケー大会	104	86	98	70	84
市	刈谷市（一万人）卓球大会	659	798	708	698	729
市	刈谷GOGOウォーキング大会	91	113	168	150	137
市	スポーツふれあい day	101	232	265	747	504
市	ルディック・ウォークステーション				303	266
体協	市長杯大会	6,583	6,950	6,823	7,121	7,127
スポ少	全国スポーツ少年団 軟式野球交流大会 刈谷市大会兼赤星杯	423	340	352	313	341
スポ少	運動適性テスト	137	200	145	126	127
スポ少	キックベースボール交流大会	156	139	145	87	荒天中止
スポ少	オレンジ運動会	308	294	276	231	235
スポ少	ドッジボール大会		445	394	380	396
レク協	ミニテニス大会	350	298	320	330	320
レク協	ソフトバレーボール大会（秋）	288	258	257	256	227
レク協	ソフトバレーボール大会（春）	322	296	301	262	222
レク協	ゲートボール大会（春）	60	57	54	39	39
レク協	ゲートボール大会（秋）	57	50	42	45	39
レク協	インディアカ大会	183	212	230	249	252
レク協	ユニホッケー大会	30	40	53	40	55
レク協	ペタンク大会（納涼）	73	74	59	71	75
レク協	宝探しウォーク	454	452	481	408	384
レク協	スポーツ吹矢交流大会			5	11	158
計		12,584	13,577	13,704	14,191	14,029

資料：刈谷市スポーツ課調べ

⑤ ホームタウンパートナー制度

恵まれたスポーツ環境や特性を活かし、第2次刈谷市スポーツマスタープランの重点施策として、2012（平成24）年度からホームタウンパートナー制度を開始し、現在は、バスケットボールやバレーボール、サッカーなど8種目計12のスポーツチームをホームタウンパートナーとして認定しています。

各チームに対しては、試合などの広報、ジュニア育成を目的とした教室・スクールへの協力支援、大会会場の確保などの活動支援を行うとともに、小中学生向けのスポーツ教室の開催、全国に向けた刈谷市の魅力発信などに協力をいただきホームタウンパートナーチームと連携した魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

しかしながら、ホームタウンパートナーチームの認知度は、18歳以上の市民（一般）が37.8%、小学生が40.8%、中学生が30.2%となっており、まだまだ半数以上の市民が知らない状況です。

<刈谷市ホームタウンパートナーチーム（平成29・30年度）>

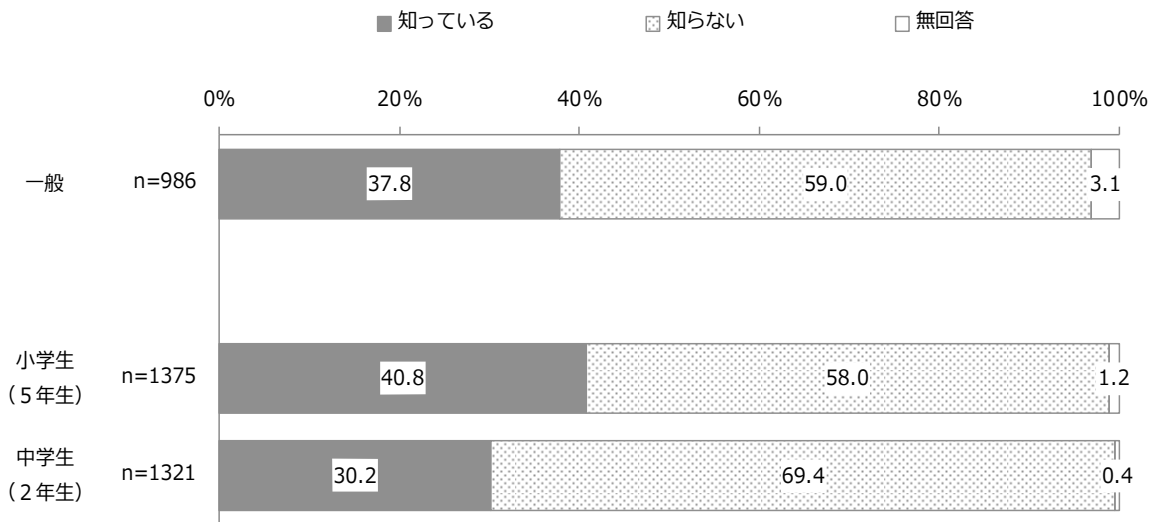


ホームタウンパートナーチームによる
刈谷キラキラ教室



ホームタウンパートナーチームのホームゲーム

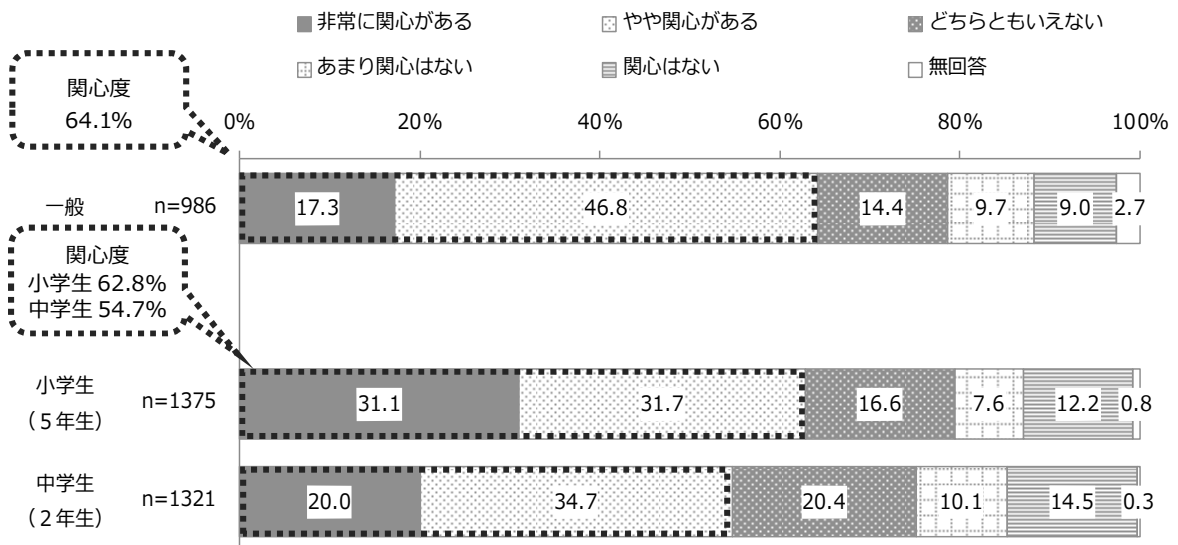
図表 17 刈谷市ホームタウンパートナーチームの認知度（一般・小中学生）〈単数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」
平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」

本市にゆかりのあるスポーツ選手やチームが全国レベルの大会やオリンピック・ワールドカップなどの大会で活躍することへの関心度は、18歳以上の市民（一般）が64.1%、小学生が62.8%、中学生が54.7%となっており、市民の関心度は高くなっています。

図表 18 刈谷市にゆかりのあるスポーツ選手やチームが活躍することへの関心度（一般・小中学生）〈単数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」
平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する小中学生アンケート」

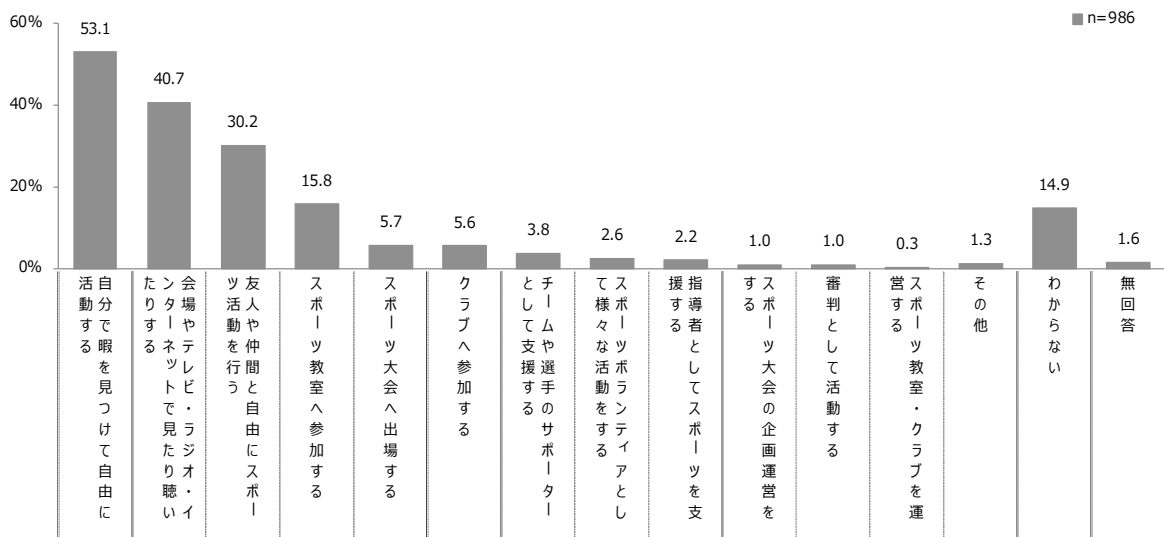
⑥ 今後のスポーツへの関わり方

今後のスポーツへの関わり方では、スポーツ教室やクラブへ参加して活動する人よりも、個人や仲間と自由に活動を行ったり、会場やテレビ・ラジオなどで見たり聴いたりする人の割合が高くなっています。

一方で、「スポーツボランティアとして様々な活動をする（2.6%）」、「指導者としてスポーツを支援する（2.2%）」など、「ささえる」活動に関わりたい人の割合は低い状況です。

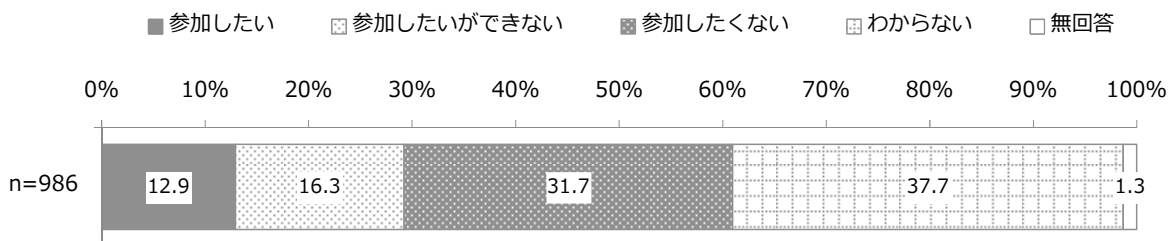
また、2026年のアジア競技大会など、地元で開催される大会へささえる側として、参加したい人の割合は12.9%となっています。

図表 19 今後のスポーツに対する関わり方（一般）〈3つまで〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 20 地元で開かれる大会へのささえる側としての参加（一般）〈単数回答〉

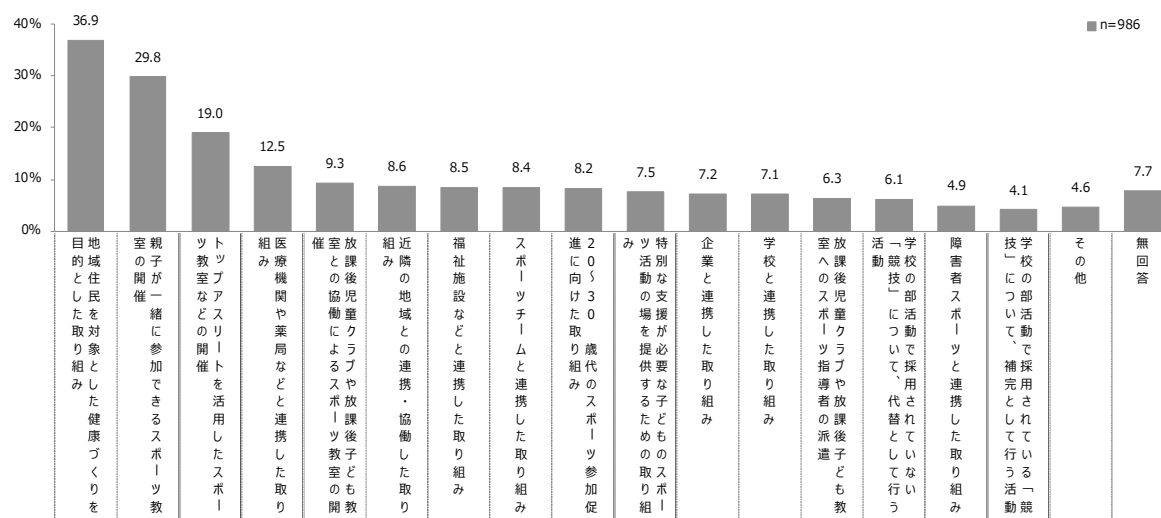


資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

今後実施するとよいと思う活動では、「地域住民を対象とした健康づくりを目的とした取り組み（36.9%）」が最も多く、次いで「親子が一緒に参加できるスポーツ教室の開催（29.8%）」、「トップアスリートを活用したスポーツ教室などの開催（19.0%）」となっています。

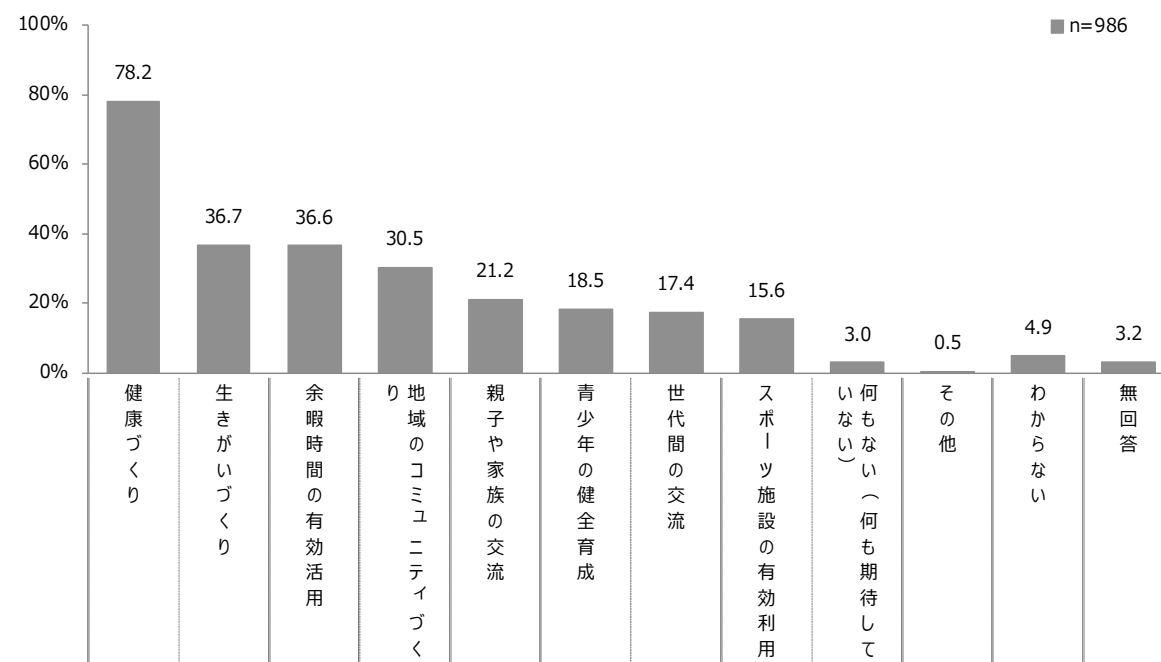
また、スポーツや運動に期待する役割でも、「健康づくり（78.2%）」が最も多くなっており、健康に対する市民の意識が高いことがうかがえるとともに、「生きがいがづくり（36.7%）」、「余暇時間の有効活用（36.6%）」、「地域のコミュニティづくり（30.5%）」など、さまざまな役割への期待もうかがえます。

図表 21 今後実施するとよいと思う活動（一般）〈3つまで〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 22 スポーツや運動に期待する役割（一般）〈複数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

(2) クラブ・団体の育成

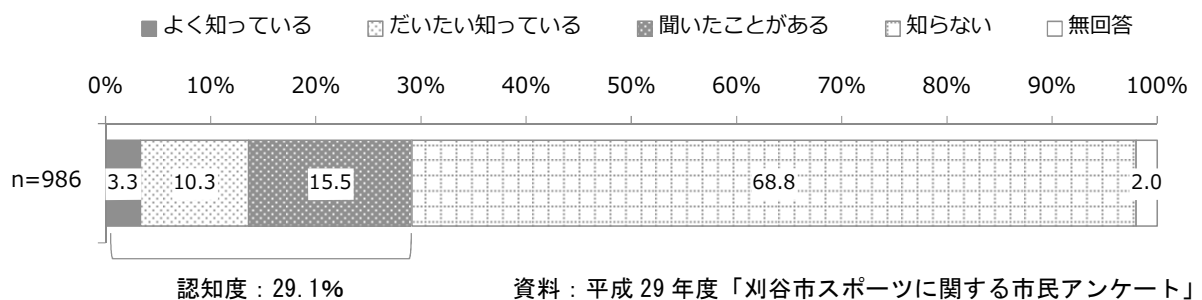
① 総合型地域スポーツクラブ

全6中学校区で、地域住民が主体となり、多種目、多世代、多志向を特徴とした総合型地域スポーツクラブが活動しており、各クラブでは、子どもから高齢者までだれもが、体力や技術、目的に応じてさまざまな種目に気軽に参加できるよう、数多くのスポーツ教室やサークルが実施されています。また、スポーツの他にも文化的な講座や地域住民に向けたイベントなども実施され、クラブごとに地域のニーズに即した特色ある活動が行われています。

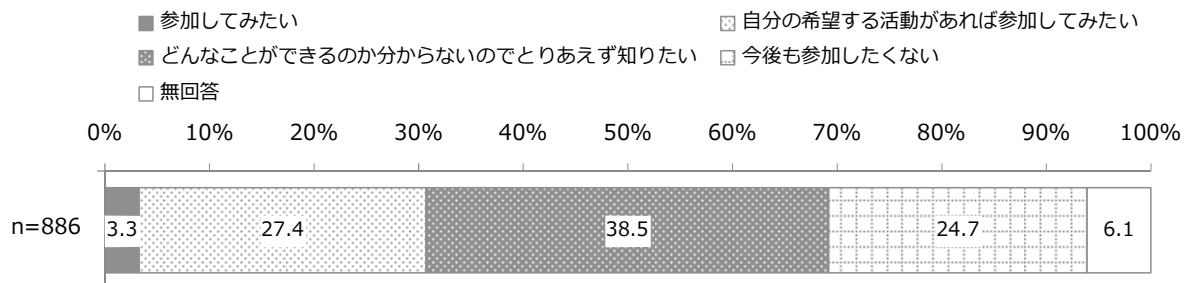
しかしながら、総合型地域スポーツクラブの認知度は、クラブのことを知らない人が68.8%と、半数以上の市民に知られていない状況です。

一方で、今後の参加意向については、「自分の希望する活動があれば参加してみたい(27.4%)」、「どんなことができるのか分からないのでとりあえず知りたい(38.5%)」となっており、興味や関心がある人は多くいることがうかがえます。

図表 23 総合型地域スポーツクラブの認知度（一般）〈単数回答〉



図表 24 総合型地域スポーツクラブへの参加意向（一般）〈単数回答〉



各クラブの会員数については、増加傾向にはあるものの、その伸びはわずかとなっています。

また、各クラブに対し2017（平成29）年度に実施した「スポーツに関する団体調査」では、「会員や財源の確保」の他、「活動場所の確保・維持」や「指導者や事務局員など運営スタッフの確保」などが、課題として挙げられました。

図表 25 総合型地域スポーツクラブの現状（平成29年度）

クラブ名	設立年月日	講座内容
朝日総合スポーツクラブ	平成16年10月2日	初心者ミニテニス教室はじめ31講座
依佐美総合スポーツクラブ	平成17年7月3日	やってみりん空手教室はじめ23講座
刈谷東総合スポーツクラブ	平成17年10月2日	親子・小学生バドミントン教室はじめ22講座
富士松総合スポーツクラブ	平成18年10月7日	ソフトバレーボール教室はじめ18講座
雁が音総合スポーツクラブ	平成18年10月8日	チアリーディング教室はじめ15講座
刈谷南総合スポーツクラブ	平成19年4月15日	小学生バスケットボール教室はじめ11講座

資料：刈谷市スポーツ課調べ

図表 26 総合型地域スポーツクラブ会員数 (人)

クラブ名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
朝日総合スポーツクラブ	600	609	605	571	550
依佐美総合スポーツクラブ	370	346	352	339	343
刈谷東総合スポーツクラブ	315	342	393	336	348
富士松総合スポーツクラブ	306	309	307	321	303
雁が音総合スポーツクラブ	255	315	309	370	441
刈谷南総合スポーツクラブ	186	205	209	245	223
計	2,032	2,126	2,175	2,182	2,208

資料：刈谷市スポーツ課調べ

② 刈谷市体育協会

刈谷市体育協会は、1959（昭和34）年に創設以来長年にわたり、加盟団体の競技力の向上及び団体相互の交流と親睦を図るとともに、市民の健全な心身の発達のため、市と連携・協力し、競技スポーツの推進、地域スポーツの支援、スポーツ情報の提供、スポーツイベントの誘致・開催など、スポーツ施策の中核的な担い手となっています。

2013（平成25）年度にグラウンド・ゴルフ連盟が刈谷市レクリエーション協会より移行し、現在、刈谷市体育協会には、24の競技団体、中小学校体育連盟、市内3高等学校が加盟しています。



刈谷市長杯総合体育大会 総合開会式

図表 27 刈谷市体育協会加盟人数

(人)

連盟	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
陸上競技連盟	426	531	449	452	435
テニス連盟	448	487	515	505	560
剣道連盟	389	369	389	416	412
サッカー連盟	3,001	3,001	3,001	3,119	3,048
バドミントン連盟	491	484	494	491	498
柔道連盟	153	153	101	101	96
相撲連盟	90	90	90	98	104
軟式野球連盟	2,874	3,024	2,753	2,619	2,489
卓球連盟	307	304	294	312	335
弓道連盟	206	201	201	201	201
バレーボール連盟	606	609	609	634	639
ソフトテニス連盟	329	329	382	382	386
水泳連盟	164	164	164	164	164
ソフトボール連盟	248	226	233	234	241
バスケットボール連盟	969	944	1,079	889	994
ヨット連盟	38	38	38	38	39
ハンドボール連盟	225	195	195	195	195
レスリング連盟	71	72	68	62	61
ライフル射撃連盟	24	25	25	25	25
スキー連盟	168	167	165	191	191
少林寺拳法連盟	208	204	227	210	207
ボウリング連盟	54	67	63	89	93
綱引連盟	53	54	53	57	57
グラウンド・ゴルフ連盟	485	503	488	499	496
計	12,027	12,241	12,076	11,983	11,966

資料：刈谷市スポーツ課調べ

③ 刈谷市レクリエーション協会

刈谷市レクリエーション協会は、1947（昭和22）年に創設以来長年にわたり、市民の健康と文化の向上を目的に、生涯を通じて市民が楽しく参加できるレクリエーション活動の普及・振興に力を注いできました。

2013（平成25）年度にグラウンド・ゴルフ連盟が刈谷市体育協会に移行し、2015（平成27）年度にスポーツ吹矢協会の加盟があり、現在、刈谷市レクリエーション協会では、スポーツ関連団体として10団体が活動しています。

図表 28 刈谷市レクリエーション協会加盟人数(スポーツ関連団体に限る) (人)

団体名	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
レクリエーション指導者クラブ	35	36	35	31	28
ゲートボール協会	82	61	59	57	53
フォークダンスクラブ ウィズ	28	18	24	23	24
愛知教育大学レクリエーションクラブ	13	7	12	15	12
ペタンク同好会	24	23	23	23	23
インディアカ協会	136	129	130	125	117
ソフトバレーボール連盟	300	300	300	300	300
ユニホッケー協会	120	110	120	140	140
ミニテニス協会	92	112	113	116	117
スポーツ吹矢協会			27	32	32
計	830	796	843	862	846

資料：刈谷市スポーツ課調べ



スポーツ吹矢講習会(スポーツ吹矢協会)



宝さがしウォーク大会(レクリエーション指導者クラブ)

④ 刈谷市スポーツ少年団

刈谷市スポーツ少年団は、1962（昭和37）年に発足し、刈谷市体育協会の下部組織として位置づけられ、その活動を通じて、青少年のスポーツを推進し、心身の健全な育成を図ってきました。

また、単位団による種目別の活動はもとより、種目を超えて市内外の少年団との交流も行うなど、広域的な活動も行っています。

図表 29 刈谷市スポーツ少年団登録人数 (人)

団体名	種目	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
双葉ドラゴンズ	軟式野球	60	62	62	61	53
亀城ベースボール	軟式野球	33	25	20	17	24
刈谷ブルドック	軟式野球	48	41	34	46	44
小垣江少年野球	軟式野球	57	50	44	43	44
さくら少年野球	軟式野球	42	33	30	29	29
今川ビクトリー	軟式野球	53	46	45	42	41
住吉ベースボール	軟式野球	38	42	42	38	40
少年野球スハラ	軟式野球	30	27	33	30	31
富士松東少年野球	軟式野球	41	39	32	25	21
小山少年野球クラブ	軟式野球	25	47	31	29	32
隼スカイボーイズ	軟式野球	32	22	24	25	28
刈谷ポパイズ	軟式野球	58	62	54	51	33
日高レッツ	軟式野球	25	34	36	37	42
刈谷サッカースクール	サッカー	78	55	58	43	55
刈谷サッカークラブ	サッカー	45	54	37	52	28
富士松フットボールクラブ	サッカー	30	33	49	39	31
刈谷南フットボールクラブ	サッカー	37	43	43	40	48
亀城フットボールクラブ	サッカー	37	13	25	19	17
刈谷トラヴェッソサッカークラブ	サッカー	40	36	28	25	27
連体空手刈谷哲心会	総合武道	19	15	15	12	10
秀武館刈谷	空手	20	24	13		
刈谷剣道	剣道	30	28	23	33	28
計		891	831	778	736	706

資料：刈谷市スポーツ課調べ

(3) 施設の整備・充実・開放

2007（平成19）年に、市内中央部の総合運動公園内にウィングアリーナ刈谷が建設され、併せて、ウェーブスタジアム刈谷の改修、グリーングラウンド刈谷の整備が行われました。これにより、新たなスポーツ拠点が完成し、屋内体育施設、プール、グラウンドなどの拡充が図られ、現在に至るまで、初心者からトップレベルの競技者まで、身近に利用できるスポーツ施設として親しまれています。

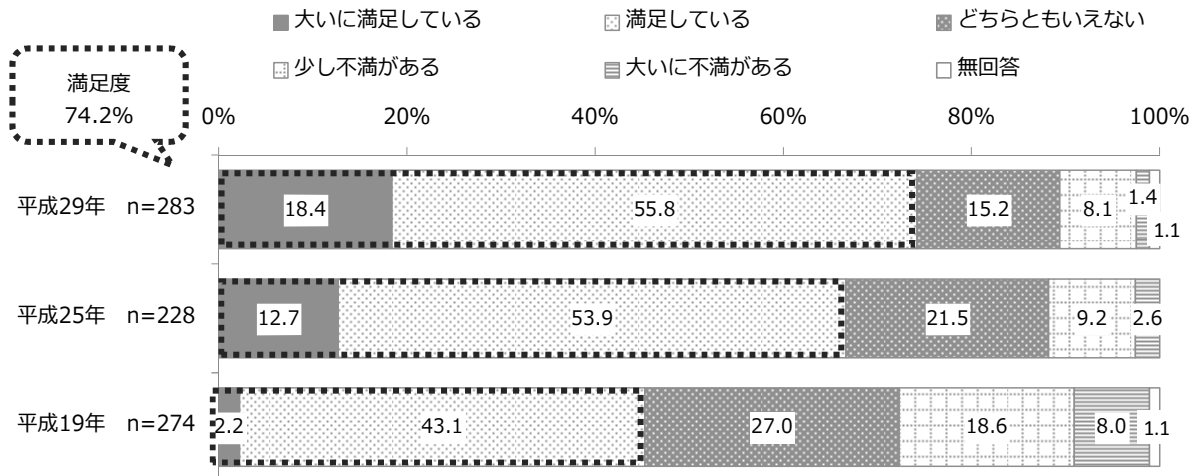
また、亀城公園周辺に集まる刈谷市体育館、刈谷球場、亀城公園運動広場などの体育施設は、古くから親しまれるとともに、第2のスポーツ拠点として多くの市民に利用されています。

そして、地域においては、生涯学習施設の利用や学校体育施設、企業のスポーツ施設の地域開放などにより、市民の身近なスポーツの活動場所が確保されています。

公共スポーツ施設の利用満足度は、74.2%と高くなっており、過去の調査結果と比較しても上昇しています。

一方、これらのスポーツ施設は利用率が高く、飽和状態が続いています。また、施設の老朽化や騒音・違法駐車などによる近隣住民の住環境への影響などの課題も発生しています。

図表 30 公共スポーツ施設の利用満足度（一般）〈単数回答〉

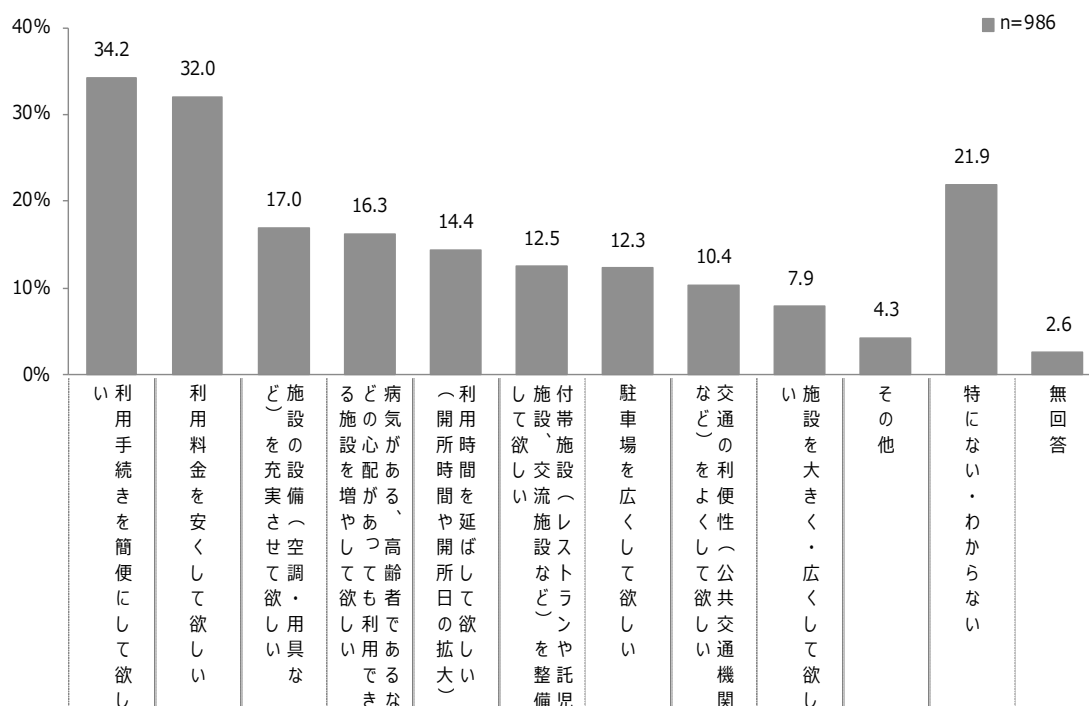


資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」
 平成25年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」
 平成19年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

公共スポーツ施設を利用する上での希望では、「利用手続きを簡便にして欲しい」、「利用料金を安くして欲しい」、「施設設備を充実させて欲しい」、「病気がある、高齢者であるなどの心配があっても利用できる施設を増やして欲しい」、「利用時間を延ばして欲しい」など、多岐にわたっています。

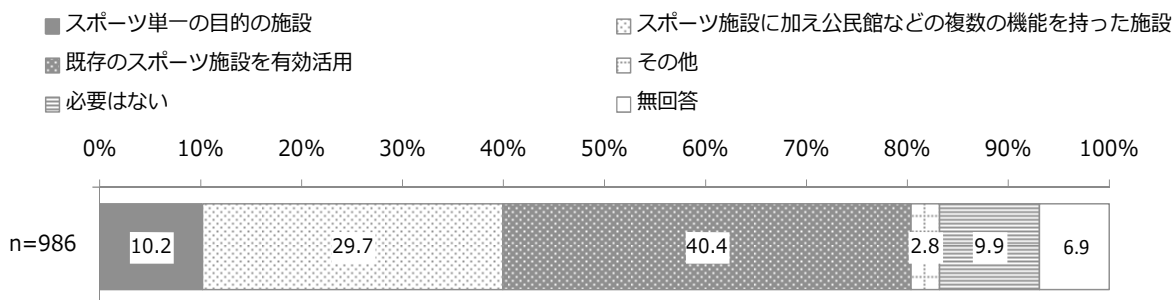
また、今後の公共スポーツ施設の整備充実のための方向性では、「既存のスポーツ施設を有効活用（40.4%）」が最も多く、次いで「スポーツ施設に加え公民館などの複数の機能を持った施設（29.7%）」の整備となっています。

図表 31 公共スポーツ施設を利用する上での希望（一般）〈3つまで〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 32 公共スポーツ施設の整備充実のための方向性（一般）〈単数回答〉



資料：平成 29 年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 33 学校スポーツ施設開放状況(登録人数) (人)

種目	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
軟式野球	939	925	791	791	766
ソフトボール	441	437	497	464	463
サッカー	1,318	1,385	1,106	1,028	930
ソフトテニス	304	228	233	298	304
バレーボール	1,422	1,646	1,589	1,582	1,599
バスケットボール	772	746	884	1,068	1,001
卓球	86	92	232	81	78
剣道	354	363	359	371	321
バドミントン	258	200	192	233	306
武道	219	210	149	140	190
インディアカ	222	220	204	213	212
綱引き	46	35	50	46	47
ソフトバレーボール	612	429	544	563	297
ミニテニス	98	100	129	159	155
その他(ドッジボールなど)	3,929	4,523	3,573	3,535	3,399
計	11,020	11,539	10,532	10,572	10,068

資料：刈谷市スポーツ課調べ

「ウイングアリーナ刈谷」が「2014年アリーナオブザイヤー」を受賞しました！



「アリーナオブザイヤー」は、日本のアリーナスポーツが持続的に自立可能な発展をすることを願い、一般社団法人アリーナスポーツ協議会が、最も優秀なアリーナを表彰するものです。

「ウイングアリーナ刈谷」は、バレーボール、フットサル、バスケットボールのトップリーグ選手 1,258 人によるアンケートを経て、全国に約 300 ある施設の中から、栄えある初代「アリーナオブザイヤー」に選ばれました。

観戦しやすい環境と、市民利用がしやすい体育館としての環境の両方を兼ね備えた施設であるとの評価を受けました。

図表 34 学校スポーツ施設開放状況(種目別利用回数)

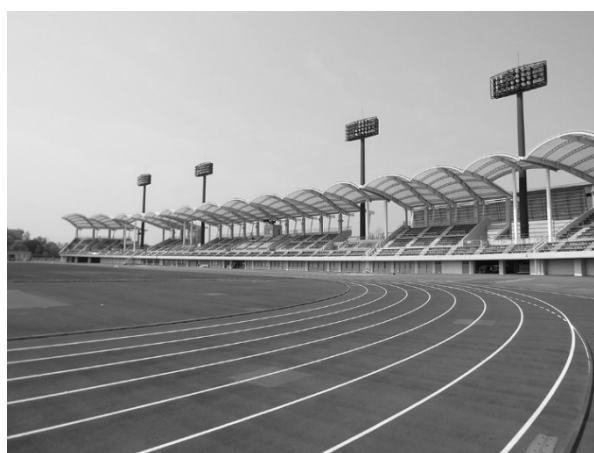
(回)

場所	種目	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
グラウンド	軟式野球	1,207	1,173	1,128	1,052	1,188
	ソフトボール	332	329	320	270	253
	サッカー	491	456	426	476	509
	ソフトテニス	197	290	300	263	324
	その他	14	20	32	41	34
体育館 武道場	バレーボール	2,268	2,347	2,582	2,465	2,278
	バスケットボール	1,750	1,664	1,742	1,834	1,804
	卓球	202	195	199	184	167
	剣道	522	472	415	480	471
	バドミントン	557	564	534	542	564
	武道	483	419	386	365	382
	インディアカ	595	599	596	607	588
	綱引き	95	90	89	77	91
	ソフトバレーボール	342	359	364	345	373
	ミニテニス	149	222	250	267	275
	その他(ドッジボールなど)	535	553	508	462	481
クラブ室	その他	3	5	5	15	15
計		9,742	9,757	9,876	9,745	9,797

資料：刈谷市スポーツ課調べ



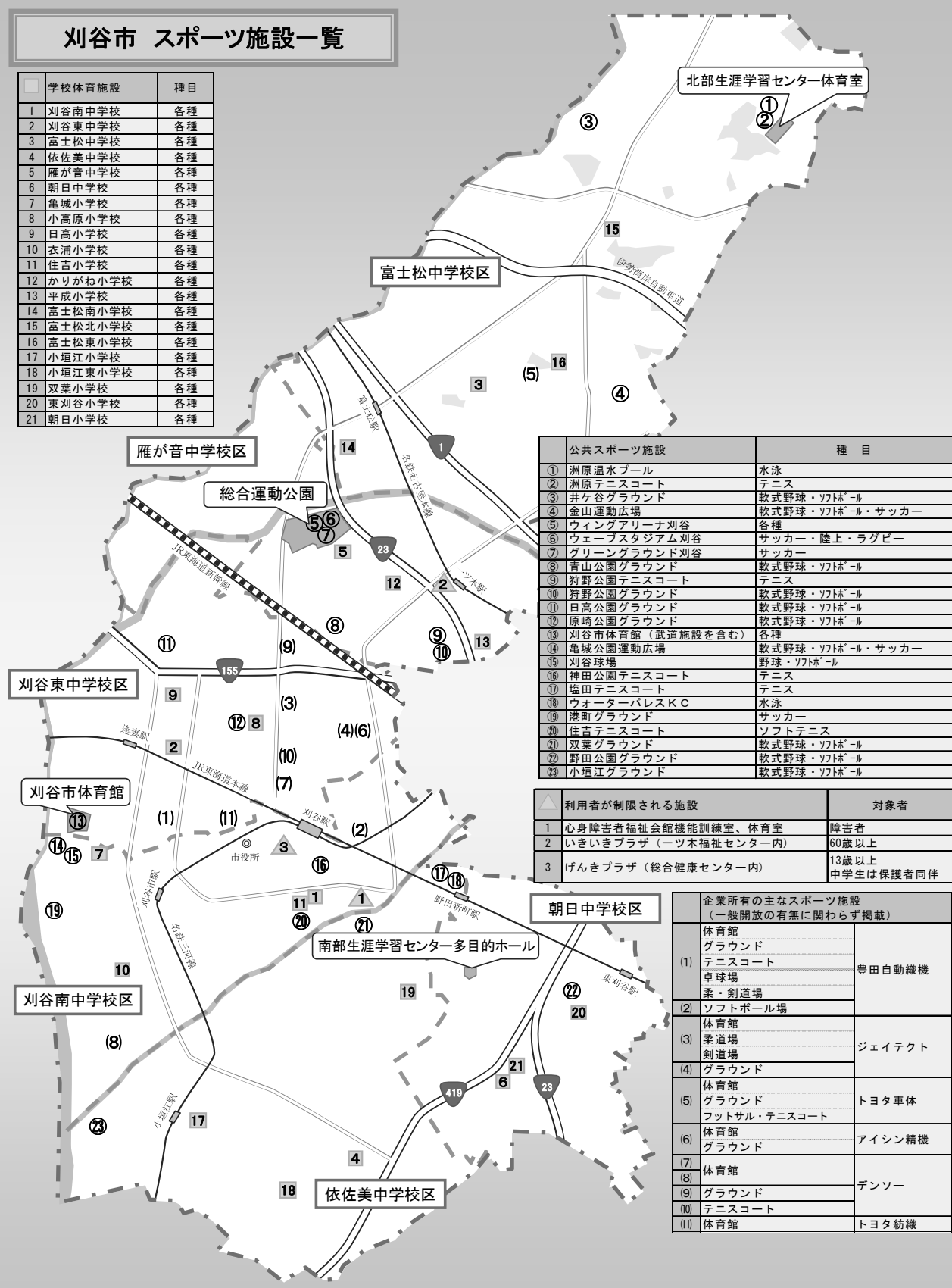
ウイングアリーナ刈谷(奥)
グリーングラウンド刈谷(手前)



ウェーブスタジアム刈谷

刈谷市 スポーツ施設一覧

学校体育施設	種目
1 刈谷南中学校	各種
2 刈谷東中学校	各種
3 富士松中学校	各種
4 依佐美中学校	各種
5 雁が音中学校	各種
6 朝日中学校	各種
7 亀城小学校	各種
8 小高原小学校	各種
9 日高小学校	各種
10 衣浦小学校	各種
11 住吉小学校	各種
12 かりがね小学校	各種
13 平成小学校	各種
14 富士松南小学校	各種
15 富士松北小学校	各種
16 富士松東小学校	各種
17 小垣江小学校	各種
18 小垣江東小学校	各種
19 双葉小学校	各種
20 東刈谷小学校	各種
21 朝日小学校	各種



公共スポーツ施設	種目
① 洲原温水プール	水泳
② 洲原テニスコート	テニス
③ 井ヶ谷グラウンド	軟式野球・ソフトボール
④ 金山運動広場	軟式野球・ソフトボール・サッカー
⑤ ウィングアリーナ刈谷	各種
⑥ ウェーブスタジアム刈谷	サッカー・陸上・ラグビー
⑦ グリーングラウンド刈谷	サッカー
⑧ 青山公園グラウンド	軟式野球・ソフトボール
⑨ 狩野公園テニスコート	テニス
⑩ 狩野公園グラウンド	軟式野球・ソフトボール
⑪ 日高公園グラウンド	軟式野球・ソフトボール
⑫ 原崎公園グラウンド	軟式野球・ソフトボール
⑬ 刈谷市体育館（武道施設を含む）	各種
⑭ 亀城公園運動広場	軟式野球・ソフトボール・サッカー
⑮ 刈谷球場	野球・ソフトボール
⑯ 神田公園テニスコート	テニス
⑰ 塩田テニスコート	テニス
⑱ ウォーターパレスKC	水泳
⑲ 港町グラウンド	サッカー
⑳ 住吉テニスコート	ソフトテニス
㉑ 双葉グラウンド	軟式野球・ソフトボール
㉒ 野田公園グラウンド	軟式野球・ソフトボール
㉓ 小垣江グラウンド	軟式野球・ソフトボール

利用者が制限される施設	対象者
1 心身障害者福祉会館機能訓練室、体育室	障害者
2 いきいきプラザ（一ツ木福祉センター内）	60歳以上
3 げんきプラザ（総合健康センター内）	13歳以上 中学生は保護者同伴

企業所有の主なスポーツ施設 （一般開放の有無に関わらず掲載）	
(1) 体育館 グラウンド テニスコート 卓球場	豊田自動織機
(2) ソフトボール場	
(3) 体育館 柔道場 剣道場	ジェイテクト
(4) グラウンド	
(5) 体育館 グラウンド フットサル・テニスコート	トヨタ車体
(6) 体育館 グラウンド	アイシン精機
(7) 体育館	
(8) 体育館	
(9) グラウンド	デンソー
(10) テニスコート	
(11) 体育館	トヨタ紡織

※公共施設の詳細については、刈谷市ホームページ施設案内を参照

資料：刈谷市スポーツ課調べ

(4) 指導者・リーダーの育成

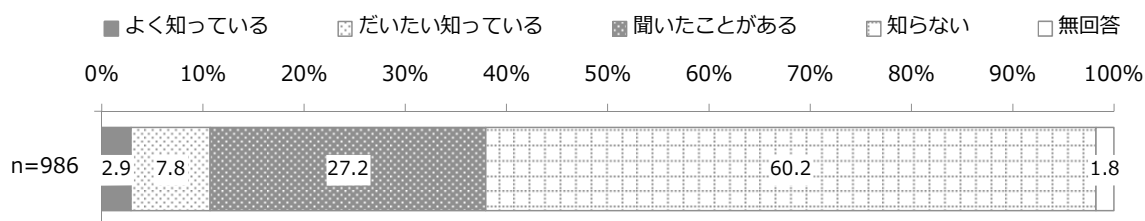
市民のスポーツ活動の活性化や継続化を図るため、その推進役となるリーダーを養成する講座を開催し、リーダーとして必要な知識や技術を研修する機会を提供しています。

また、地域スポーツのコーディネーター役である50人のスポーツ推進委員が、子ども会などからの依頼による派遣指導やスポーツに親しむきっかけづくりとしてのスポーツふれあいdayなどの開催、市の主催するスポーツイベントへの協力など、地域におけるスポーツの推進に主体的に取り組むとともに、自主的な研修会の開催などにより、資質や能力の向上を図っています。

しかしながら、スポーツ推進委員の認知度は、知らない人が60.2%と低い状況です。

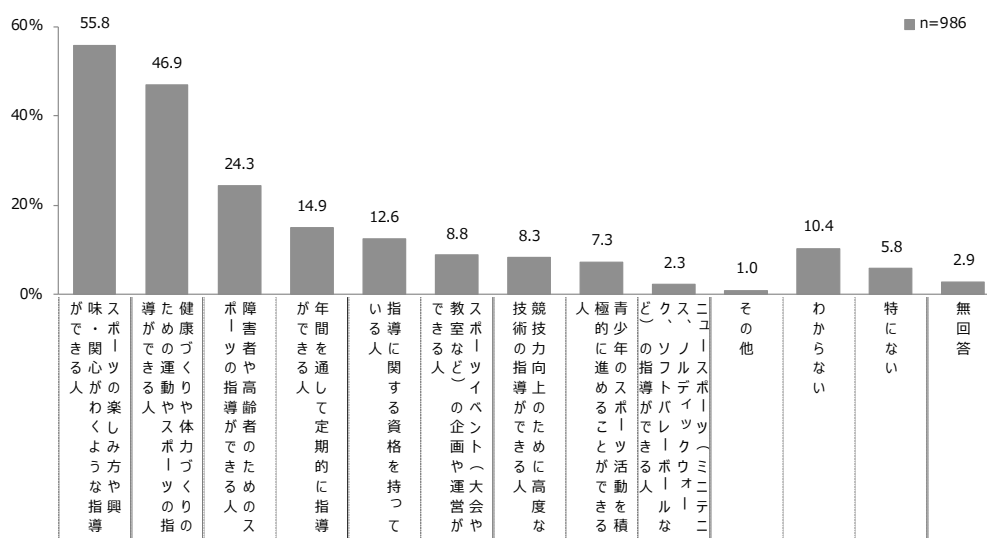
スポーツや運動を行うにあたって必要なスポーツ指導者では、「スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人(55.8%)」が最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人(46.9%)」、「障害者や高齢者のためのスポーツの指導ができる人(24.3%)」となっています。

図表 35 スポーツ推進委員の認知度(一般)〈単数回答〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

図表 36 スポーツや運動を行うにあたって必要なスポーツ指導者(一般)〈3つまで〉



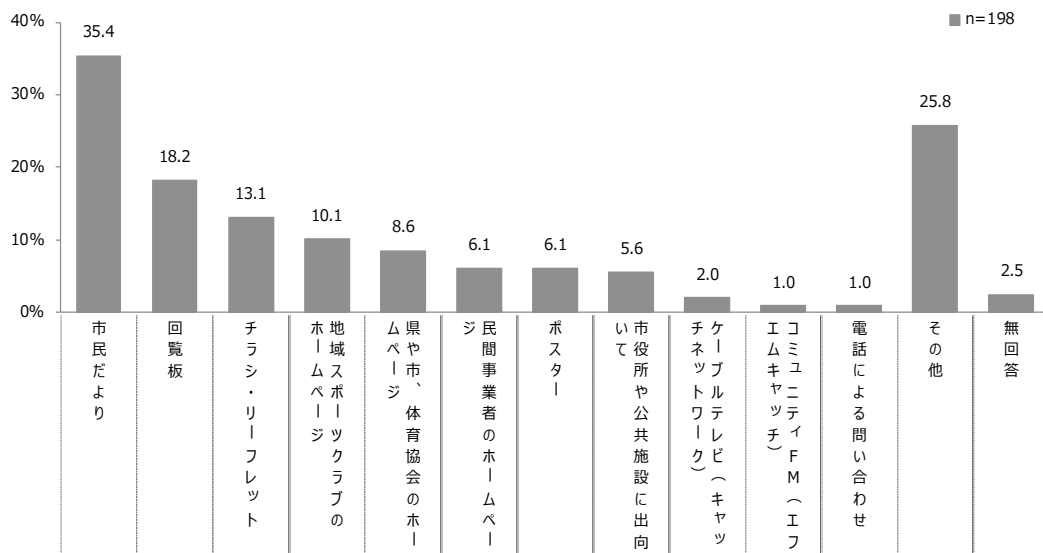
資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

(5) 情報の提供

スポーツに関する情報については、市や指定管理者、総合型地域スポーツクラブ、体育協会やレクリエーション協会及びその加盟団体が主催する活動プログラムに加え、地元のスポーツチームやアスリートの情報などを、市民だよりや市ホームページなどに掲載する他、チラシ・リーフレットの配付やポスターの掲示、地域密着型のマスメディアによる情報発信などにより提供を行っています。また、施設の情報に関しては、インターネット上で施設の空き状況の確認や予約ができるよう公共施設予約案内システムを活用して利便性を高めてきました。

スポーツ行事やスポーツ教室などの情報源については、「市民だより（35.4%）」が最も多くなっていますが、過去の調査結果と比べると、その数値は大きく減少しており、さまざまなツールを活用した多岐にわたる情報展開の必要性が高まっていることがうかがえます。

図表 37 スポーツ行事、スポーツ教室等の情報源（一般）〈複数回答〉



資料：平成29年度「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」

【参考値】

	全体	実際にどのようにそれらの情報を得ましたか。												
		市民だより	回覧板	チラシ・リーフレット	地域のスポーツクラブのホームページ	県や市、体育協会のホームページ	民間事業者のホームページ	ポスター	市役所や公共施設に向	ウェブテレビ（キャッチネット）	コミュニティFM（エフエムキャッチ）	電話による問い合わせ	その他	無回答
平成29年	198	35.4	18.2	13.1	10.1	8.6	6.1	6.1	5.6	2.0	1.0	1.0	25.8	2.5
平成25年	144	64.6	27.1			11.8			7.6	2.1	0.7	0.7	22.2	0.7
平成19年	175	68.6	25.1			7.4			5.7	2.3	0.0	0.6	22.9	2.3

※「県や市、体育協会のホームページ」は、平成19年、平成25年では「インターネットホームページ」

※「地域スポーツクラブのホームページ」「民間事業者のホームページ」「ポスター」「チラシ・リーフレット」は、平成29年より追加

2 これまでの取り組みの評価

第2次刈谷市スポーツマスタープランでは、プランの進捗状況と達成度を評価するため、5つの基本施策ごとに、合わせて10の指標とプラン最終年度である2018（平成30）年度におけるその目標値を設定しています。

そして、2018（平成30）年度に最終評価を行ったところ、指標の目標達成状況は、全10指標のうち、目標を達成した指標【評価区分A】は4つ、目標未達成だが改善傾向にある指標【評価区分B】は2つ、目標未達成（目標達成は困難）な指標【評価区分C】は3つでした。

市民やスポーツ・レクリエーション団体などとともに、目標の達成に向けて取り組んだ結果、基本施策別では、「活動プログラムの充実」、「施設の整備・充実・開放」、「指導者・リーダーの育成」については、評価を行ったすべての指標において、評価区分B以上の結果が得られた一方、「クラブ・団体の育成」、「情報の提供」については、すべての指標において、評価区分Cの結果となっており、今後は、より一層の連携の強化や取り組みの充実を図る必要があります。

図表 38 基本施策別の指標の目標達成状況一覧

基本施策	目標達成 【評価区分A】	目標未達成 だが改善傾向 【評価区分B】	目標未達成 【評価区分C】	その他	指標総数
(1) 活動プログラムの充実	1	1	0	1	3
(2) クラブ・団体の育成	0	0	2	0	2
(3) 施設の整備・充実・開放	2	0	0	0	2
(4) 指導者・リーダーの育成	1	1	0	0	2
(5) 情報の提供	0	0	1	0	1
合計	4	2	3	1	10

※（1）活動プログラムの充実における指標「全国大会等への出場者数」については、平成29年度に激励金の交付基準の変更を行い、県内各種大会の交付対象からの除外や団体に係る対象人数制限の導入などを行った結果、評価に用いる数値の算出条件に変更が生じたため、評価困難として、その評価結果を「その他」と区分しました。

(1) 活動プログラムの充実

評価指標	プラン策定時 (H19)	中間値 (H24)	目標値 (H30)	現状値 (H29)	判定
成人のスポーツ実施率 (週1回以上)	26.0% (H20)	39.5%	50.0%	44.6% (H28)	B
各種大会、イベント参加者数	14,999人	23,500人	26,000人	27,635人	A
全国大会等への出場者数	808人	667人	1,000人	453人	その他

- ・成人のスポーツ実施率：2年に1度実施する市政全般にわたる「市民意識調査」による数値（すべての有効回答のうち、週1回以上スポーツを行っている人の割合）
- ・各種大会、イベントへの参加者数：スポーツマスタープラン実施状況調査の「各種大会、イベント参加者数」による数値（各課の数値も含める）
- ・全国大会等への出場者数：市から激励金を交付した人数（※平成29年度に交付基準の変更を行ったため、評価はできず。交付基準変更前の平成28年度は751人）

(2) クラブ・団体の育成

評価指標	プラン策定時 (H19)	中間値 (H24)	目標値 (H30)	現状値 (H29)	判定
スポーツクラブ加入者数	31,474人	28,883人	32,000人	25,794人	C
総合型地域スポーツクラブ	2,282人	2,107人	6,000人	2,208人	
体育協会	12,021人	12,245人	12,000人	11,966人	
レクリエーション協会	1,439人	1,314人	2,000人	846人	
スポーツ少年団	1,047人	940人	1,000人	706人	
学校スポーツ開放	14,685人	12,277人	11,000人	10,068人	
総合型地域スポーツクラブの 認知度	37.8%	35.6% (H25)	70.0%	29.1%	C

- ・各団体の加入者数：各団体からの報告数値
- ・学校スポーツ開放：市スポーツ課への登録人数
- ・総合型地域スポーツクラブの認知度：「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」による数値

(3) 施設の整備・充実・開放

評価指標	プラン策定時 (H19)	中間値 (H24)	目標値 (H30)	現状値 (H29)	判定
スポーツ施設の利用に満足している人の割合	45.3%	66.6% (H25)	70.0%	74.2%	A
スポーツ施設の利用者数	248,219 人	439,085 人	450,000 人	536,336 人	A

- ・スポーツ施設の利用に満足している人の割合：「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」による数値
- ・スポーツ施設の利用者数：ウィングアリーナ刈谷と刈谷市体育館の利用者数の合計

(4) 指導者・リーダーの育成

評価指標	プラン策定時 (H19)	中間値 (H24)	目標値 (H30)	現状値 (H29)	判定
指導者名簿登載者数	79 人	247 人	270 人	203 人	B
学校部活動の外部指導者数	9 人	17 人	20 人	22 人	A

- ・指導者名簿登載者数：「生涯学習指導者名簿」等へのスポーツ関連指導者の登載者数
- ・学校部活動の外部指導者数：部活動指導者活用事業において、専門的な技術指導を行うために依頼する外部指導者数

(5) 情報の提供

評価指標	プラン策定時 (H19)	中間値 (H24)	目標値 (H30)	現状値 (H29)	判定
スポーツ行事の情報を知らなかったと回答した人の割合	13.5%	13.7% (H25)	10.0%	17.2%	C

- ・スポーツ行事の情報を知らなかったと回答した人の割合：「刈谷市スポーツに関する市民アンケート」の中で、「あなたは、この1年間に、県や市、体育協会、地区、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、民間事業者などが開催するスポーツ行事、スポーツ教室などに参加したことがありますか」という問いに対して、「行っているのを知らなかった」と答えた人の割合

3 スポーツ活動の推進に向けた課題

スポーツ活動の現状や第2次刈谷市スポーツマスタープランの評価などを踏まえ、今後のスポーツ活動の推進に向けた課題について、次のとおり整理します。

(1) 活動プログラムの充実

課題① 女性及び働く世代（20歳代～50歳代）のスポーツ実施率の向上

成人のスポーツ実施率は上昇傾向にありますが、性別では女性、年代別では20歳代から50歳代で割合が低くなっています。これは、仕事や家事・育児などで忙しく、スポーツに取り組む時間が取りにくいことが理由の一つと考えられます。

今後は、企業や市の関連部署などと連携した周知啓発活動に取り組むとともに、女性や働く世代の人がスポーツに取り組むことができる活動プログラムの充実を図ることが必要です。

課題② 高齢者の健康・体力づくり、介護予防のためのスポーツへの参加機会の充実

60歳代以上の人のスポーツ実施率は、他の年代に比べ高くなっており、自らの健康や体力の維持に対する意識や関心が高いことがうかがえます。

高齢者スポーツの推進は、健康・体力づくりの他、生きがいづくりや介護予防、地域との連帯感の醸成などに大きな効果をもたらすものと考えられます。本市の人口ビジョンでは2040年には高齢化率25.8%の推計となっており、本格的な超高齢社会を見据え、引き続き、高齢者のスポーツへの参加機会の充実を図ることが必要です。

課題③ 子どもがスポーツに触れる機会の充実

近年、子どもの体力は回復傾向にあるものの、運動をする子としない子の二極化が問題となっています。また、市内の小中学生では、スポーツや運動をしていない理由として、「嫌い、苦手、興味がない」が最も多くなっています。

子どもがスポーツに触れる機会を充実させるには、競技性の高いスポーツはもとより、ニュースポーツの普及など、スポーツの楽しさ、親しみやすさ、大切さを教え、子どものスポーツに親しむ習慣や取り組む意欲を養うことが必要です。

課題④ 障害のある人のスポーツ振興

だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる社会を実現するため、地域の施設などと連携した事業の実施やサークルなどの自主的な活動を支援するとともに、ささえる人材の育成・確保を推進し、障害のある人のスポーツの一層の振興を図ることが必要です。

課題⑤ 健康や体力の維持増進効果に着目した普及啓発やきっかけづくり

市民が行っているスポーツでは、ウォーキングなど健康づくりを目的に気軽に一人でも行えるものの割合が高くなっています。また、スポーツをしている理由や今後の関わり方などでも「健康づくり」に対する市民の意識が高い傾向にあります。

スポーツを行っていない人などへの働きかけとして、スポーツの持つ健康や体力の維持増進効果の積極的な発信や気軽に行えるスポーツの普及啓発が必要です。

課題⑥ 「みるスポーツ」の推進

スポーツへの関わり方として、スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」こともスポーツ振興に向けた重要な要素として捉えます。

スポーツを見て、喜びや感動を得ることで、日々の生活の活力につながるとともに、スポーツへの参加のきっかけとなることが期待されます。

今後も、本市の恵まれたスポーツ環境を活かし、全国レベルの大会や国際スポーツ大会などの誘致などにより、「みるスポーツ」の推進に努めることが必要です。

課題⑦ スポーツを通じた魅力あるまちづくりの推進

全国レベルの大会や国際スポーツ大会などの誘致の取り組みは、「みるスポーツ」の推進の他、多くの方々の来訪によるまちの活性化や市の魅力発信などにつながっています。

本市の特性を活かした取り組みとして、今後も引き続き、誘致に取り組むとともに、地域振興、観光振興の観点を含め、活力と魅力にあふれたまちづくりを進めていくことが必要です。

課題⑧ 「ささえるスポーツ」の普及啓発及び「ささえる」人材の確保・育成

スポーツへの関わり方として、スポーツを「する」ことだけでなく、「ささえる」こともスポーツ振興に向けた重要な要素として捉えます。

市民のスポーツ活動の推進や継続には、指導者やリーダーに加え、運営スタッフやスポーツボランティアの存在が必要不可欠ですが、「ささえるスポーツ」については、まだその認知度は低く、言葉や概念についてもあまり知られていないのが現状です。また、「ささえる」側としてスポーツに関わりたいと思う人が少ない状況です。

今後は、「ささえる」こともスポーツへの関わり方として大切な要素であることを発信するとともに、これまで育成に取り組んでいた指導者・リーダーに加え、今後予定される大規模スポーツ大会において活躍が期待される人材として、運営スタッフやスポーツボランティアなどの確保や育成に取り組んでいくことが必要です。

課題⑨ ホームタウンパートナー制度の充実

ホームタウンパートナー制度は、本市の特性を活かした取り組みとして、「する・みる・ささえる」スポーツ推進の一翼を担う重要な取り組みです。

市民アンケートでは、トップアスリートを活用したスポーツ教室の開催など、ホームタウンパートナーチームとの連携によるスポーツ推進を望む声も見られます。

今後は、ホームタウンパートナーチームとの連携強化による制度の一層の充実や認知度の向上などを図ることが必要です。

課題⑩ スポーツを通じた交流の促進

市民アンケートでは、スポーツに期待する役割として、地域のコミュニティづくりや世代間の交流が挙げられています。スポーツは世界共通の文化の一つであり、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールのもとで互いに競うことやささえあうことにより相互理解や交流が促進されることが期待できます。

そこで、地域コミュニティの活性化や国際交流の推進などに向けて、スポーツの持つ力を活用し、地域住民同士、障害のある人ない人、日本人や外国人、市民とアスリートなど、さまざまな交流を促進することが必要です。

(2) クラブ・団体の育成

課題① 総合型地域スポーツクラブの充実・強化

総合型地域スポーツクラブは、地域におけるスポーツ振興の中心となる団体で、市民の身近なところでスポーツ推進に取り組んでいますが、認知度は十分ではありません。

今後も引き続き、活動内容の充実や組織力の強化に取り組み、クラブの充実・強化を図るとともに、情報発信などの強化を図り、広く市民に周知することが必要です。

課題② 体育協会・レクリエーション協会・スポーツ少年団の充実・強化

体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団は、スポーツ・レクリエーション活動の普及・振興の中心的な役割を担っている団体です。

今後も、スポーツ・レクリエーションに対する多様な市民ニーズに対応できるよう、加盟団体を統括する協会の自主的・自立的な活動の支援を行うとともに、運営体制の更なる充実・強化を図ることが必要です。



総合型地域スポーツクラブの活動風景（ピラティス）



総合型地域スポーツクラブの活動風景（バスケットボール）

(3) 施設の整備・充実・開放

課題① 既存施設のより適正な管理・運営

市民アンケートでは、公共スポーツ施設の利用満足度は高くなっている一方、施設利用に対する希望は多岐に渡っています。また、公共スポーツ施設の整備充実では、既存施設の有効利用を望む意見が多く見られます。

今後は、スポーツ施設の利用に関する市民ニーズの更なる把握に努め、市民が安心して気軽に利用できるよう、利用形態の見直しやより適正な管理・運営に努めていくことが必要です。

課題② 市民が身近で気軽に行うことができるスポーツ環境の充実

市民アンケートでは、市民が実際に行っている運動として、ウォーキング、健康体操、ランニング、サイクリングなど、身近な場所で気軽に行える種目を行っている人の割合が高くなっています。

そのような傾向を踏まえ、ウォーキングコースの設定など、市民が安心・安全で気軽に行えるスポーツ環境の充実を図ることが必要です。

課題③ 施設及び周辺環境への対策

施設やその周辺環境の現状として、施設の老朽化や騒音・違法駐車などによる近隣住民の住環境への影響などの問題が発生しています。

今後も、問題の解決に向けた取り組みを進め、良好な施設運営に努めることが必要です。

課題④ 施設の適正配置についての検討

主要なスポーツ施設では、周辺環境の問題に加え、市の総合的なまちづくりの方向性も勘案し、施設の適正配置について検討していくことが必要です。



刈谷市体育館



刈谷球場

(4) 指導者・リーダーの育成

課題① 市民ニーズに対応した指導者・リーダーの育成及び支援

指導者やリーダーに対する市民のニーズは多様化しています。

指導者・リーダーの育成を図るために、多様化する市民ニーズを的確にとらえた講座の開催などを行うとともに、本市の特性を活かし、大学やトップスポーツチームなどの専門的知識を有する団体との連携強化による研修機会の提供や、指導者・リーダー同士が交流・連携できる場づくりなどが必要です。

課題② スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員は地域スポーツのコーディネーター役として、市民の身近なところでスポーツの推進に取り組んでいますが、認知度は十分ではありません。

今後も引き続き、スポーツ推進委員の活動支援に努めるとともに、スポーツ推進委員とその活動について、広く市民に周知することが必要です。

(5) 情報の提供

課題① スポーツに関する効果的な情報提供

市民がスポーツに興味を持ち、取り組むためには、必要な情報を、必要な人へ効果的な方法で情報提供することが重要です。市民だよりやホームページ、地域密着型のマスメディアなど、さまざまなツールを活用した情報の提供に加え、口コミ効果の期待される SNS の活用など、新たな切り口での情報の提供が必要です。